

10. 6～8 全国交流集会講演のまとめ

尾崎恵子さんは、「人は何のためにそれをしないといけないのかが、心から同意できた時に無限のエネルギーが湧いてくる」と話し、自身の労働組合活動を通して感じた学ぶことについて、「なぜ学ぶのか？それは現実を見誤らないため。誰かに嫉妬し、誰かを引きずりおろせば自分が助かるかのような幻想に立ち向かい、自分のしんどさはどこから来るのかを見誤らないために私たちは学ぶ。自分の現実をどう変えたいのか、自分自身の心を見つめ直し、見極めるために私たちは学ぶ。自分の望む方向が様々な情報の中でぜんぜん違う方向に行くこともあります。本当に自分の望むものは何なのかを見極めるために学ぶ。自分の望む未来をつくりだすためにどうたたかうのか。実践するために学びましょう」と参加者を励ましました。

関根秀明さんは、「正社員を守るためには非正規社員を切らないといけない。非正規の待遇が悪いのは正規のせいだと思っている間は足元をすくわれる。労働組合が失業・半失業者の雇用、非正規労働者の労働条件の底上げを通じて正規労働者の労働条件引き上げが可能。現代の日本の貧困と格差の本質を考えないといけない。本質はまさに資本と賃労働の対立だ。社会保障の充実と底上げをはかることは、生存権以下の現役労働者の就労と労働条件を淘汰する」と話しました。自己責任について、「全てが自己責任ではなく社会の矛盾もいくらかはあり半々じゃないかというのが一般的だ。しかし、日本政府は意図的に貧困をつくりだしてきた。それを自己責任とするのは筋が通らない。さらに、階層ごとに対立までつくられてきた。どういった職業に就こうが最低限の生活保障が必要。自己責任は0%だ」としました。学ぶことについて、「現実を知り、奥底に流れる法則を知らないと可哀そうという感情に止まってしまう。知るということを通じて、躊躇なくたたかえる」とまとめました。